

参院選も終盤！ ここにきて安倍首相、9条改正を明言！ その意図は？

選挙も押し迫った15日、安倍首相は遊説先のテレビ番組（長崎国際テレビ）のインタビュー（12日収録、15日放送）に応じ、こう発言した。「われわれは9条を改正し、その（自衛隊）存在と役割を明記していく。これがむしろ正しい姿だろう」と、憲法9条改正の必要性を明言したのである。参院選も終盤を迎えるこの時期に、この発言の意味するものは何か？

これまで安倍首相は参院選の争点としてアベノミクスへの評価を問う姿勢を強調してきた。6年前に惨敗した参院選を教訓に、4日に福島市で行った「第1声」では改憲に関する発言を一切行わなかった。だが、選挙協力を行う公明党は、山口代表が集団的自衛権の解釈改憲に「断固反対」と述べるなど、安倍首相との温度差を鮮明にしつつある。首相発言の背景には、選挙期間中に改憲を訴えた”アリバイ”を作り、改憲に向けたレールを敷く意図があったのではというものである。

政治評論家の浅川氏は「日本維新の会とみんなの党は条件付で改憲賛成。公明党が改憲であたこうだと言っても、維新やみんなが補完勢力になることを示したかったのでは」と指摘している。

21日投開票の参院選は、自民党の歴史的な大勝が現実味を帯びている。首相の9条改正発言は、こうした選挙情勢を背景に参院選後を想定しているというのである。そもそも憲法改正の発議には衆参両院で3分の2以上の議席を確保する必要があり、参院では162議席が必要となる。憲法改正に慎重な公明党を除くと、今回の参院選で101議席を得なければならない。101議席には自民、維新、みんなの3党を合わせても及ばないといわれている。首相発言には「参院選後に民主党分裂を仕掛けるもくろみもある」との見方もある。与党圧勝の参院選後を見越して、参院の3分の2の確保を今から視野に入れているのである。

安倍首相はついにその封印を解いた！

9日に発表された防衛白書を巡って、韓国外務省からは竹島記述の削除要求と抗議が、中国も「中国の軍事的脅威論を言い立てている」として、強い不満と断固たる反対を表明！ このままでは、周辺国との軋轢は深まるばかり、昭和の初期を思い起こさせるような昨今の雰囲気ではないでしょうか？ 私たちは、戦争への道には断固として反対です。

残された期間はわずか、悔いの無い取り組みを展開しよう！